



商業：持田祥汰（東京国際大）  
 体育：朝比奈恋（日本体育大）本校柔道部出身  
 体育：栗田健二（日本体育大）本校柔道部出身



# 教育実習

教育実習が五月三十一日から始まり、今年度は三名行いました。いずれも熊商卒業生であり、それぞれ大学へ進学して教職課程をとり、実習として履修しました。生徒の立場で過ごしていた母校で今は先生として戸惑いながらも積極的に生徒と向き合っています。実習を通して、熊商での毎年の経験が、商業以外にも情を報、体育、社会等の教職を目指しています。

## 熊商生へ…

栗 自分達が生徒の時からあまり時間が経っていないかと思っていますが、とてもおとなしい印象です。自分達の時代とは大違い（笑）もっと自分の好きな場面に、思いっきり表現して欲しいと思っています。卒業時に後悔をしないように、**あつという間の熊商での生活を楽しんで下さい。**今思うと、もう少し遊んでおけば良かったです（笑）

朝 私もとても落ち着いていると思います。もっと元気に学校生活を楽しんで欲しいです。**特に、友人との時間を大切に下さい。**卒業後は進路がバラバラで、就職した友人とほとんど会っていません。今しか出来ないこと、思う存分楽しんで欲しいです。



## 教師を目指したきっかけは？

栗 中学時代は教師と福祉関係への道を考えていました。教科へのこだわりは特になく「なれたらいいかな…」と考えていました。熊商へ入学し、**柔道の監督（澤田教諭）への出会い**が大きかったです。強さ、優しさ、貫録…どれをとっても「監督のような教師になりたい」と感じ、目指しました。現在は採用試験の勉強と柔道競技者との両立で充実した日々を過ごしています。

朝 中学時代は教師かプログラマーになりたいと思っていました。熊商を選び、情報処理科を志望したのはこうした理由でした。また、高校へ進学しても柔道を続けようと思っていました。そこでの**監督との出会い**で、ぼんやり描いていた教師像が目標へと明確化し、監督のような信頼される体育の教師になりたい、という気持ちへと変わりました。しっかり叱れる教師になりたいです。そこで厳しさや優しさを生徒

## 教育実習を終えて

栗 三週間、あつという間でした。朝の準備からHR、授業、清掃、部活動、指導案作成等で一日一日がとても充実していました。**さらに「教師になりたい」という気持ちが増しました。**

朝 先生方や生徒たちから声をかけてくれたので、あまり緊張せずに終わることができました。特に良かったのは、授業や清掃などで生徒とコミュニケーションをとることが出来たことです。



# PTA・企業による就職面接指導

# 就職

活動本番の前に、恒例のPTAや企業人事担当の方を面接官として、面接指導を行うています。これまでに、就職ガイダンスやビジネスマナー講習、SPI等数多くの活動をしてきました。7月の求人票公開を前に、就職希望者はここでの経験が大きく本番に生きてきます。

生徒は本校オリジナルの面接ノートで自分の考えを整理し、面接時に発言できるように準備します。熊商での3年間、様々な思いを乗せて、緊張しながら面接を行います。就職員による面接指導も行いますが、PTAや企業人事担当の方による厳しい目でより実践的なチェックをしていただいております。がんばれ、熊商生！



## 面接ノート

(自商)

組 番  
 氏名

7月	8月	9月
面接	面接	面接

埼玉県立熊谷商業高等学校

